

2021年8月16日

お客様各位



営業部 部門長 猪坂 文朗

手動シャッター下部にシャッターブラシを取り付ける場合の「フック穴」対策について

拝啓 時下ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社では、上記標題記載の対策として、現状、別紙記載の対策を講じておりましたが、一部のお客様より「現状の対策は、フック穴を塞ぐことを前提としたものになっているが、フック穴を塞ぐのは不適切である」というご指摘を受けました。

弊社としては、お客様からのご指摘を真摯に受け止め、その改善に向けて全社一丸となり取り組む所存ですが、解決策を講じるまでには、少々時間を要します。

つきましては、新たな改善策をご用意できるまでは、弊社への問い合わせ時やご注文時に、弊社より手動シャッター下部に問題なくブラシ取り付けることができるかかどうか確認させて頂き、現場ごとに代替案も含めて提案いただくようにいたします。

本件に関して、ご不明な点がございましたら、下記窓口までお問い合わせください。

お客様はご心配ご面倒をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

<お問い合わせ窓口> 株式会社バーテック カスタマーサポートチーム

TEL : 0120-06-6841

Mail : [info@burrtec.co.jp](mailto:info@burrtec.co.jp)

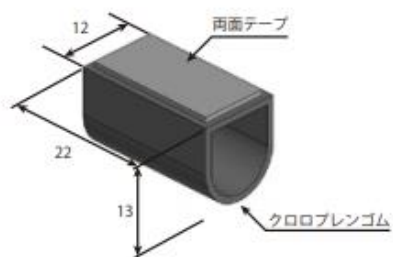
お問い合わせフォーム (WEB) ▶



## バーシャットII下部用 FT クッション施工説明書

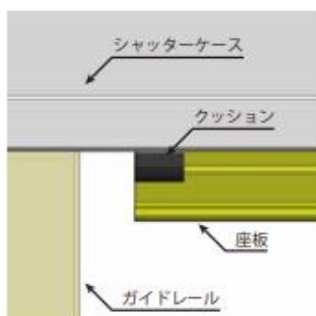


バーシャットII下部用 FT を手動シャッターに施工を行う場合、シャッター開閉を行うフック棒の穴を塞ぎます。



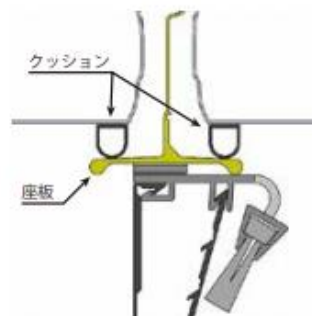
シャッターケースに上記のクッションを左右前後の計4箇所両面テープで施工し、座板とシャッターボックスの間に隙間を作ります。

## クッション施工説明書



①クッションの施工位置は上記の様に座板の左右の端に施工して下さい。

※施工箇所の油分や汚れを綺麗に除去してから作業を行って下さい。



②上記の様にシャッターケースに両面テープの全面が接着している位置に施工して下さい。



③クッションを施工することで生じた隙間に外側からフック棒を座板に直接引っ掛け、シャッターを降ろして下さい。